

〔研究室紹介〕

## 農業経済学科「農業食料政策論研究室」 Agricultural and Food Policy

橋口 卓也

HASHIGUCHI Takuya

経済発展とともに全産業に占める農業の割合が低下していくことは、よく知られており、実際に、わが国のGDPに占める農業の割合は、既に2%を切っています。しかしながら、同様の状況にある多くの先進諸国にとって、なお農業は重要な政策部門の一つであり続けており、日本も例外ではありません。ただし、もちろん、国によって農業保護の水準や政策手法の違いは存在しています。しばしば、日本の農業政策は「猫の目農政」と表現されますが、当研究室では、主として戦後の日本の農業政策の展開動向を学びつつ、時々、政策が農業の現実に対して、いかなる立場をとってきたのか、その背景は何かを実態を踏まえながら考察していくことを課題として設定しています。

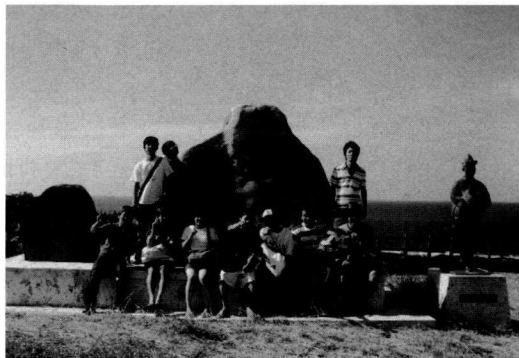
研究室運営としては、担当教員としての着任から、まだ約2年が経ったところで、この3月に第1期生を送り出したばかりです。試行錯誤が続いていますが、ゼミ単位で実施する3年次の「農村調査実習」は、2年連続して沖縄の離島で行いました。伊是名島と粟国島ですが、存在自体を知らない方も多いのではないのでしょうか。観光に特化しておらず、かつ農業も比較的盛んであるということで選定しましたが、学生にとっては、様々なカルチャー・ショックがあったようで、大きな教育効果があったのではないかと考えています。わが国の農林水産政策は、このような離島を含めて隅々に及んでいます。一方、離島の農業、水産業、人々の生き様の実際を見聞きする中で、この国に第1次産業が存在すること、離島のような条件不利地域に人々が定住すること、等の意義が、少なからず理解できたのではないかと考えています。

私自身は、これまで主として日本の条件不利地域を対象とした農業・農村政策の展開を意識して、研究を

行ってきました。それゆえ、内容が「国際（kokusai）的」ならぬ「国粋（kokusui）的」と揶揄されることもあります。自身の研究領域が狭いことをもって、自虐的に冗談で、そのように称することも無きにしもあらずですが、本来はコスモポリタンたるべきが理想であると思っています。2008年度より農業経済学科から食料環境政策学科への学科名称変更とカリキュラムの改訂によって、当研究室は「農業政策論研究室」の名称を冠する予定となっています。現行の名称より対象が絞られるイメージがありますが、その分、研究内容を深化させなければならないと考えております。



粟国島での調査ヒアリングの様子（農村調査実習）



大海原と島発祥の舞踊の碑を背景に記念撮影（粟国島）